

チャレンジ！
オープンガバナンス2026
(COG2026)
その意義と課題

キックオフイベント
2026年6月14日



視聴者用Slido : <https://www.slido.com/jp> (#1387943)



開会

審査委員長あいさつ

宇野重規 審査委員長

本日のプログラム説明

COG事務局

COG2026キックオフプログラム概要

<https://ogn.or.jp/cog/653/>

総合司会：阿部由紀江（COG2016連携体制賞自治体）

1. 開会：13:00～13:10

- ① 開会あいさつ：COG審査委員長 宇野重規
- ② 本日のプログラム説明：COG事務局長 平田祐子

2. 「COG2026への期待－みなさまへのメッセージ」 13:10～13:50

- ① COG審査委員などからのメッセージ 13:10～13:30
宇野重規委員長、川島宏一委員、神原咲子委員、庄司昌彦委員、関本義秀委員、奥村ファウンダー
- ② 生成AIの活用ワンポイントアドバイス 13:30～13:45
(株)自動処理代表取締役 高木祐介氏
- ③ エバンジェリストからの期待 13:45～13:50
(斎藤直巨・中野区グローハッピー)

3. COG2025参加受賞チームと自治体の経験に学ぶ13:50～15:10

① <各チームと自治体で5分ほど発表の後審査委員などを交えたダイアログ>

賞	チーム：自治体	発表と対話
① 総合賞	Code for Manazuru	13:50～14:00
② アイデア賞	チーム世田谷ミライデザイン	14:00～14:10
③ 連携体制賞 (兼ハーバード賞)	イエループYUKOHAMA2025	14:10～14:20
④ 学生賞	ともしび三条中央商店街活性し隊	14:20～14:30

② <エバンジェリストからの話題提供>

多田功・元加古川市役所

COG参加にあたってのハードルとその対応など

③ Q&Aなど

4. COG2026キックオフ クロージング

COGの進め方、今後の予定など（事務局）

視聴者用Slido：<https://www.slido.com/jp> (#1387943)

COG審査委員会

審査委員長

宇野 重規（東京大学社会科学研究所教授）

審査委員（五十音順）

市川 文子（（株）リパブリック共同代表）

川島 宏一（筑波大学システム情報系特令教授）

神原 咲子（神戸市看護大学看護学部教授）

国谷 裕子（東京芸術大学理事）

澁谷 遊野（東京大学大学院情報学環准教授）

庄司 昌彦（武蔵大学社会学部メディア社会学科教授）

関本 義秀（東京大学空間情報科学研究センター教授）

渡辺 美智子（立正大学データサイエンス学部教授）

アドバイザー

城山 英明 東京大学未来ビジョン研究センター長 公共政策大学院・大学院法学政治学研究科教授（初代審査委員長）

奥村 裕一（社）OGN代表理事 元東京大学公共政策大学院客員教授（初代COG事務局長・COGファウンダー）



本日参加の審査委員紹介

宇野 重規 （東京大学社会科学研究所教授：COG審査委員会委員長）

川島 宏一 （筑波大学システム情報系特令教授）

神原 咲子 （神戸市看護大学看護学部教授）

庄司 昌彦 （武蔵大学社会学部メディア社会学科教授）

関本 義秀 （東京大学空間情報科学研究センター教授）

エバンジェリスト紹介

多田 功 COG2021総合賞受賞チーム連携自治体：元加古川市役所・
現TIS（株）など

斎藤 直巨 COG2016総合賞受賞チームリーダー：中野区（一社）グロー
ハッピー

COGについて

COG事務局

次世代の社会をつくる オーブンガバナンス



- モットー
- 市民も変わる
 - 地域のことは自分ごと
- 行政も変わる
 - 市民のプラットホームパートナ
- オーブンガバナンス
 - 市民と行政の共創サービス

永遠のベータ版

- アイデアに磨きをかける 3D
- データ分析と見える化
 - 社会の実相の確認と裏付け
- デザイン思考
 - 当事者の心を知る共感が原点
- デジタル技術
 - 21世紀の起爆剤をうまく使う

SDGsにも貢献



COG2026のプロセス

1 全国の自治体が「地域の課題」を提示する

市民や学生とともに取り組みたい地域課題を募集します。地域での対話や市民の声をもとに課題を見つけ、関連データとあわせて公開。

地方自治体の応募〆切
2026 **8/31** まで

2 市民・学生が「解決アイデア」をつくる

公開された地域課題に対して、市民・学生チームがデータ・デザイン・デジタルを活用し、実践的なアイデアとして提案します。

市民・学生の応募〆切
2026 **12/20** まで

3 アイデアを審査・ブラッシュアップ

提案されたアイデアは、内容や自治体との連携を審査されます。ファイナリストには、公開審査に加え、実現に向けたアドバイスや伴走支援が行われます。

最終公開審査
2027 **3/14** 東京大学にて発表

COGはこれまで10回

- 参加自治体は97（次頁）
- 市民・学生チームは607



参加自治体一覧



これまでの参加実績

札幌市/室蘭市/森町/八戸市/仙台市/鶴岡市/南陽市/会津若松市/水戸市/鹿沼市/太田市/熊谷市/本庄市/春日部市/深谷市/松戸市/茂原市/流山市/千代田区/港区/文京区/品川区/目黒区/世田谷区/中野区/多摩市/西東京市/神奈川県/横浜市/金沢区/宮前区/鎌倉市/真鶴町/新潟市/石川県/金沢市/鯖江市/越前市/静岡市/浜松市/三島市/掛川市/裾野市/菊川市/牧之原市/豊橋市/大津市/長浜市/近江八幡市/草津市/京都市/大阪府/大阪市/東淀川区/阿倍野区/東住吉区/住之江区/豊中市/枚方市/東大阪市/神戸市/長田区/須磨区/姫路市/西宮市/豊岡市/加古川市/宝塚市/高砂市/三田市/生駒市/倉敷市/広島県/宇部市/高松市/松山市/八幡浜市/久万高原町/土佐町/北九州市/福岡市/小城市/玉名市/日南市/那覇市/西原町

※姫路市・福崎町・市川町・神河町・朝来市・養父市の地域連合

2016 年から 10 年間で

97 自治体



COG実施体制



<共催（共同主催）>

- 東京大学公共政策大学院 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」教育・研究ユニット (STIG)
- 東京大学ソーシャルICTグローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム (GCL)
- (一社) オープンガバナンスネットワーク (OGN)

<連携>

- Roy and Lila Ash Center for Democratic Governance (the Ash Center) at the John F. Kennedy School of Government at Harvard University

<協賛（予定）>

- LINEヤフー株式会社
- (一財) 日本情報経済社会推進協会 (JIPDEC)
- 合同会社デロイト トーマツ

<後援>

- デジタル庁、内閣府、(一社) 行政情報システム研究所、(一財) 地域活性化センター、(一社) Code for Japan、(一社) オープン・ナレッジ・ファウンデーション・ジャパン、(一社) オープン・コーポレイツ・ジャパン

COG審査委員会

審査委員長

宇野 重規（東京大学社会科学研究所教授）

審査委員（五十音順）

市川 文子（（株）リパブリック共同代表）

川島 宏一（筑波大学システム情報系特令教授）

神原 咲子（神戸市看護大学看護学部教授）

国谷 裕子（東京芸術大学理事）

澁谷 遊野（東京大学大学院情報学環准教授）

庄司 昌彦（武蔵大学社会学部メディア社会学科教授）

関本 義秀（東京大学空間情報科学研究センター教授）

渡辺 美智子（立正大学データサイエンス学部教授）

アドバイザー

城山 英明 東京大学未来ビジョン研究センター長 公共政策大学院・大学院法学政治学研究科教授（初代審査委員長）

奥村 裕一（社）OGN代表理事 元東京大学公共政策大学院客員教授（初代COG事務局長・COGファウンダー）





COG2025の振り返り

- 参加自治体 : 41
- 市民・学生応募チーム : 63 →
- 参加者数 : 540
- 市民チーム : 7
- 混成チーム : 15
- 学生チーム : 41

COG審査委員による
「COG 2026への期待—皆様
へのメッセージ」

COG審査委員

宇野重規、神原咲子、川島宏一、庄司昌彦、関
本義秀 各委員から

COGに期待するこ
と

参加をご検討中
の自治体へのメ
ッセージ

参加をご検討中
の市民／学生へ
のメッセージ



COG2026 キックオフ

市民も変わる！ 行政も変わる！

オープンガバナンス！！

2026年6月14日 奥村 裕一（COGファウンダー）

1 COGとは何か

課題を 誰もが「自分ごと」 にする場

夏の自治体による「課題検討」 はその第一歩

秋（STEP2） は市民や学生が課題をさらに深掘りしていきます！

**COGもAIも
たかが道具 されど道具**

2 根・幹・花 —— COGを核とした三層構造

花

実装 —— 新たな連携で、社会変革へ

幹

COG —— 市民が考え、行政が支える

根

地域アゴラ —— 出会い・信頼・対話の土壌

土壌 → アイデア → 実装

人が出会い、信頼が生まれると、街は動き出す



3 オープンガバナンスとは

行政も市民も、課題に心をひらきあうこと

**市民も変わる！ 行政も変わる！
オープンガバナンス**

COGの10年で学んだこと

「人が出会い、共通の体験をし、信頼が生まれたとき、街は動き出す」

550

の地域課題

10年間で積み上げた実践の記録

607

のアイデア

市民・学生・自治体の知恵

97

参加自治体

全国に広がったネットワーク

発表の場で人々の熱量に触れ、翌日からがらりと変わった自治体職員がいました。

居場所づくりや対話の場はある。でも「たまり場で終わり、次の段階へいかない」という現実もあります。

COGが10年かけて見つけたのは、「何が足りないか」ではなく、「何が必要か」でした。

生成AI活用のワンポイント アドバイス

(株)自動処理 代表取締役

高木 祐介氏

生成AIは 「答え」ではなく 「相棒」

AIに丸投げしない。人が目的を決め、AIに作業を手伝わせ、結果は人が検証する。
15分で覚える、実践AI活用の基本。

考える 整理する 伝える



AIは 「使ってもよし、 使わなくてもよし」

COGの武器は「自分たちで問う力」。
AIはその選択肢のひとつにすぎない。

01 使う・使わないはチームが決める

AIを使うことは目的ではない。**チームの判断・対話・現場感覚が主役**。AIは作業の相棒に過ぎない。

02 問いは人間が立てる

当事者の立場で「なぜ」を掘り下げる——これが**デザイン思考（3D）の核心**。課題の芯を見極める責任は人間にある。

03 AIの出力は必ず人間が検証する

AIは自信满满に間違える（ハルシネーション）。**数字・固有名詞・出典は必ず一次資料で裏を取る**。



COGでは「考える時間」が価値になる

AIは時間を**減らす**のではなく、**配分を変える**——整理・資料化を短縮し、人間にしかできないことに時間を返す。

01

課題発見

資料読込・論点抽出はAI可。
必ず良しあしを自分たちで検討

現場や当事者にあたって感じ取り、
言葉にするのは人間

02

仮説

対立仮説を5つ出させる
(矛盾歓迎)

AIサポート可
(最後は自分たちが決める)

03

対話

壁打ち相手
として掘さぶる

AIサポート可
(最後は自分たちが決める)

04

提案

構造化＋言い換え
(キレイな構造化を疑う)

AIサポート可
(最後は自分たちが決める)

05

発表

想定問答を
10個出させる

AIサポート可
(最後は自分たちが決める)

すべての工程で：AIの出力は必ず人間が「これでよいか」を確認する。事実・数字・固有名詞は一次資料で裏を取る。

見直してはじめて、提案は自分たちのものになる。



よいプロンプトは「5点セット」で決まる

目的・背景・読者・材料・出力形式。この5層を渡せば、AIは平均的な答えから抜け出す。

01

GOAL

目的：何を成し遂げたいか

02

CONTEXT

背景：地域・規模・制約

03

AUDIENCE

読者：誰に届けるか

04

SOURCE

材料：渡す資料・データ

05

OUTPUT

出力形式：箇条書き／表／800字

5層が揃うほど、答えは「自分ごと」になる

AIは大量の文章から学んでいるため、**状況が無い**と「**平均的な日本のどこか**」を想定して答えてしまう。

5層を順に渡すだけで、出力は **あなたの地域・あなたの聞き手・あなたの目的** に絞り込まれる。

EXAMPLE — 5点セット

【GOAL】 COG提案書の「現状分析」を書きたい

【CONTEXT】 漁業中心・人口1.2万・高齢化率45%

【AUDIENCE】 COG審査員＋一般住民

【SOURCE】 添付の住民アンケート結果PDF

【OUTPUT】 600字・論点3つ・断定は避け「示唆される」を使う



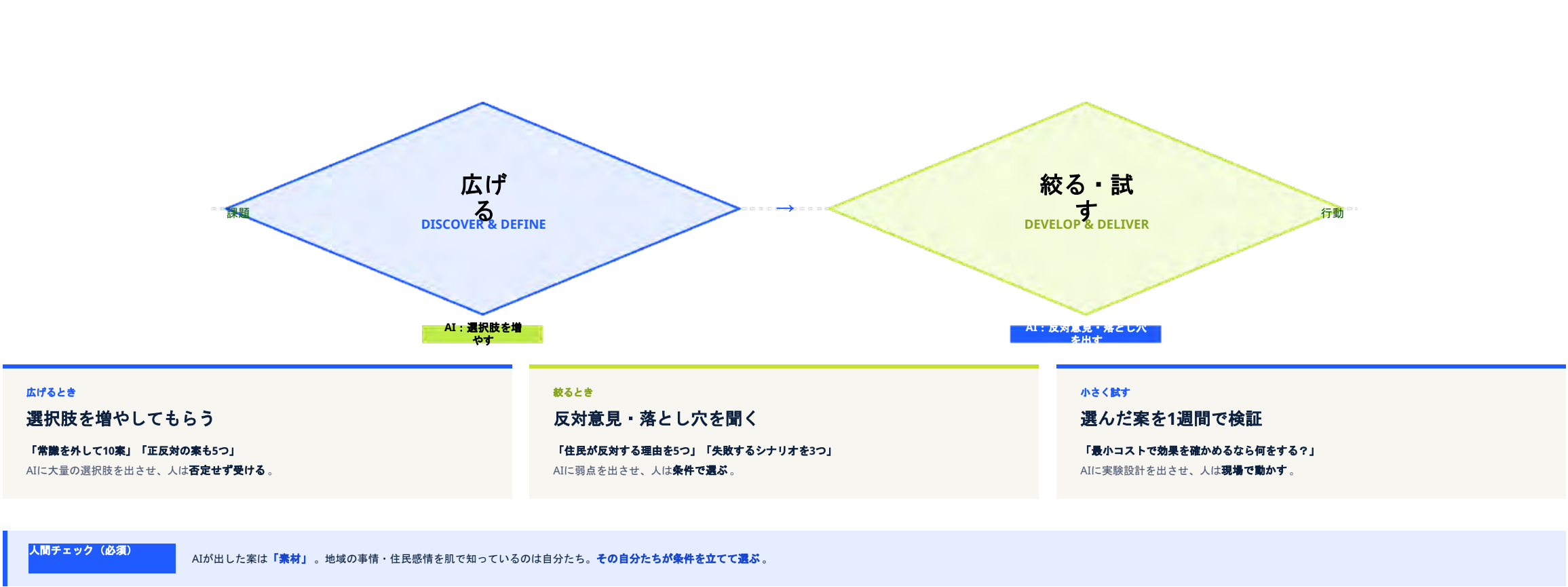
使い方①：課題を構造化する

住民の声やメモをAIに渡して論点ツリーに整える。ただし課題の「芯」は必ず人間が判断する。



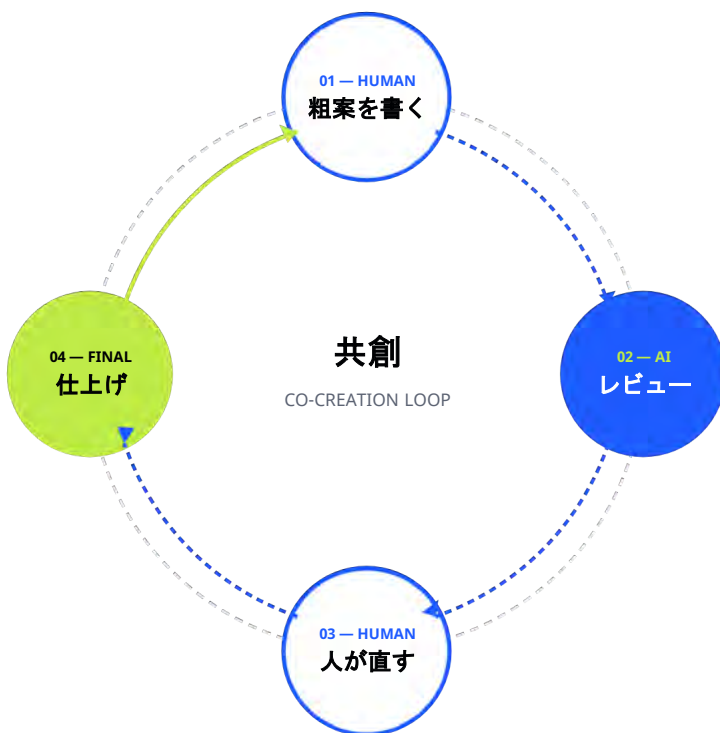
使い方②：アイデアを広げて絞る

AIは「広げる」と「絞る」で違う役を演じる。同じ仕事を二度させない。



使い方③：伝わる資料に変える

粗案 → AIレビュー → 人が直す → 仕上げ。最後の文責は、いつも人。



雑な粗案をAIに渡し、「**編集者として読んで**」と頼む。これが最も効きます。

01

HUMAN / 粗案

完璧を狙わず、**誤字・口語のまま**下書く。書く心理的ハードルを下げる。

02

AI / レビュー

「**編集者として論理の穴・冗長な箇所・難しい言葉**を指摘して」と依頼する。

03

HUMAN / 直す

AIの指摘を **取捨選択** し、自分の言葉で書き直す。事実・固有名詞は必ず一次確認。

04

FINAL / 仕上げ

「**中学生にも伝わる説明にして**」と最終パスをかけ、住民向けと提案向けの2版を用意。



「任せ切らない」 3つの境界

AIには大きく任せる。ただし、個人情報・事実確認・最終判断——この3つだけは、人が責任で握る。



RED / 入れない

個人情報・ 未公表データ

ヒアリング相手の氏名、未公開の自治体資料、内部の議論メモ。
無料プランのチャットに貼ると、**学習に使われる可能性**がある。

守ること

個人名・固有名詞は**伏字**にしてから投げる。「Aさん」「X町」で十分役立つ。



AMBER / 注意

ハルシネーション （作り話）に注意

AIは架空の判例・数字・出典を「実在」として返すことがある。
同じ質問を2回・別のAIにも聞くと性質を体感できる。ただし**一致＝正しい、ではない**。

守ること

答えが一致しても一次資料の確認は省けない。数字・固有名詞・条文は必ず原典で**確認**。



GREEN / 大きく任せる

作業支援・ たたき台づくり

議事録・要約・整理・アイデア発散・スケジュール案・想定問答。
「最初の8割」は積極的にAIに任せる。**判断と文責は人が握る**から、安心して大胆に使う。

使い方の流儀

AIの出力は「**初稿**」。公開・申請・住民共有の前に、人が一度通す。



作業開始から最終プレゼンまで——AIは全工程の相棒 になる

行政職員・参加者・学生と一緒に動くCOG活動。5フェーズ・15の具体活用から、まず1つ試してみる。



まずは **今夜10分**、自分のCOGテーマでAIに話しかける。

完璧を狙わない。「整理して」「反対意見を5つ」「中学生にも伝わるように」——その1回で、明日のチームMTGが変わります。——**もちろん、使わなくてもよい。COGの武器は自分たちで問う力。**

10 min

今夜の最小の一步



エバンジェリスト 齊藤直巨氏から

COGへの参加経験を
踏まえて

参加をご検討中
の自治体へのメ
ッセージ

参加をご検討中
の市民／学生へ
のメッセージ

受賞チームと自治体の経験に学ぶ

プログラム

賞	チーム：自治体	発表と対話
① 総合賞	Code for Manazuru: 神奈川県真鶴町	13:50～14:00
② アイデア賞	チーム世田谷未来デザイン： 東京都世田谷区	14:00～14:10
③ 連携体制賞 (兼ハーバード 賞)	イエループYOKOHAMA2025： 神奈川県横浜市	14:10～14:20
④ 学生賞	ともしび三条中央商店街活性化し隊： 新潟県三条市	14:20～14:30

(注) 発表は各5分で残りは審査委員有志や他の参加者との対話です

視聴者用Slido : <https://www.slido.com/jp> (#1387943)



視聴者用Slido :
<https://www.slido.com/jp>
(#1387943)

総合賞（オープンナレッジ農園）

チーム名：Code for Manazuru

神奈川県真鶴町

真鶴の未来を耕す

オープンナレッジ農園

 Code for Manazuru

私たちの答え：オープンナレッジ農園

真鶴の「仕事・暮らし・自然」を知り、体験し、学ぶ場所。



農作業と農地改善



リサーチと学び



土中データ調査



商品開発と発信



交流と共創



真鶴町在住の若者が運営する情報サイ



【発信】(Outreach)

オープンデータ発信、若者による
総合情報サイトからの発信

COG2024提案
プロダクト
「マナレージ」



私たちの学びの哲学：「オープンナレッジ」と「芋づる式の学び」。

活動で得た知見は、次の共創の種へ



ひとつの学びが、次の世界への扉を開く



2026年3月28日 町長へCOG受賞報告会



COG受賞報告の様子



COG受賞報告の様子



2026年4月19日 奥村先生、平田さん視察



祖母の手作りおやつ





芝浦工業大学 空き家改修サークル 真鶴設計室との交流

学生たちと土間を改修！
もっと町の人が使える場所へ



剪定したみかんの木を使い、シンボルツリーを作成





2026年3月28日 蒸留ワークショップ



レモン 蒸留の様子



7月 柵づくりを予定



2026年5月17日 Avinton Japanとの交流



農園ツアーの様子

農園を案内しつつ
課題を共有する時間に



バレンシアオレンジを収穫



交流の様子は記事に！！

 AVINTON



 AVINTON



都会を離れて豊かな自然体験。

真鶴町と育む、持続可能な地域共創。

【地域共創】Avinton ジャパンが真鶴町で探 る、人とテクノロジー の未来

note

ログイン

会員登録



AI時代、都市と地方のあいだで——真鶴で問い直す「豊かさ」

♡ 10



中瀬幸子 CEOと大学講師 - Avintonジャパン(株) | 文部科学省 専修学校理系転換推進委員

2026年5月18日 13:46

2026年5月29日 デニーン先生、真鶴視察

トランプ政権のブレーン
バンズ副大統領の師匠、
デニーン先生が
ニューアーバニズムの町、真鶴へ
視察に！！



ジェラートの商品開発(試作中)

破棄してしまうオレンジを使用し、
ジェラート開発企画が進行中。
今後、販売を検討





農園から生まれる
オープンデータ・
オープンナレッジを
活かしたい研究者、
技術者、企業。

専門性と情熱が交差する 強力なエコシステム

若者と地域との
つながり創出による、
未来の担い手育成と
地域の活性化。



専門家・企業

真鶴町

専門家・企業、行政による伴走支援

協力企業・団体



AVINTON

SHIN4NY

H-tus



Code for
Japan

町内の
他の農園

佐野農園 (Sano Farm)



Code for Ground



Code for Manazuru



オープンナレッジ
農園

地域活性化
企業人



商品開発
ブランディング
マーケティング

滞在拠点施設



土中データ測定・
オープンデータ化
支援





「代々受け継いできた農園を残したい」という
一人の大学生の思いから、
オープンナレッジ農園は、若者と未来を繋ぎ、
真鶴の未来を耕します。



アイデア賞
(世田谷「家のバトンプロジェクト」)
～片付けから始める家のこれから～

チーム名：チーム世田谷ミライデザイン

東京都世田谷区

世田谷「家のバトン」プロジェクト

～「片付け」から始める家のこれから～

チーム世田谷未来デザイン

担当自治体：世田谷区

■地域課題

空き家にしない、地域をつなぐまちづくり

不動産流通が盛んな世田谷区でも、売る・貸す以前に「家財整理が億劫」「決断が重い」「他人に使われる抵抗感」により“なんとなくそのまま”の空き家（予備軍含む）が生まれる。空き家化後に慌てないためには、居住中からの“家の終活”意識づけと、地域の受け皿づくりを同時に進める必要がある。

抑止の主戦場は「意思決定の手前」

チーム世田谷ミライデザインは世田谷区の既存施策（活用ナビ／地域貢献活用相談窓口）の前段の準備行動（片付け・思い出の昇華・住み開き）をサポートして実効性を底上げを目指します。

空き家対策：住み開きと片付けを通じた段階的なアプローチ（改善版）

Step 0：導入（既存学習機会との接続）



Step 1：家のボタン簡易診断（15分）



Step 2：思い出カタログ作成（90分×2回）



Step 3：プレ片付け（本人主導の仕分け）



Step 4：住み開きトライアル（週末2回～）



Step 5：渡し方の決定（専門家への接続）



モノの整理

家財を「捨てる」ではなく「分ける」

記憶の編集

思い出カタログで価値を再認識

地域との接続

住み開きで納得感を醸成

出口への送客

活用ナビ／相談窓口へ

■世田谷区空家等実態調査について

学生調査員 総数

1 3 8 名

説明会の様子



■参加大学の内訳

- ・駒沢大学：30名
- ・成城大学・大学院：29名
- ・明治大学・大学院：26名
- ・昭和女子大学・大学院：19名
- ・東京都市大学：15名
- ・早稲田大学・大学院：8名
- ・大妻女子大学：6名
- ・芝浦工業大学：5名

■調査の実施体制

- ・チームの人数に応じて各チームへ対象物件を割り振り
- ・調査は2人以上4人以下で行う

連携体制賞、ハーバードイノベーション賞

(サーキュラー・イエロー・プロジェクト)

チーム名：イエロープYOKOHAMA 2025

神奈川県横浜市

学生賞（人を繋ぐ商店街に学びの灯を）

～勉強場所が足りない！？その悩み、
三条中央商店街で解決します！

チーム名：ともしび 三条中央商店街活性し隊

新潟県三条市

ともしびのアイデア概要



商店街のシャッター化

勉強スペース不足



商店街に勉強スペースを作ろう！

活動ストーリー(オオゴトだけ)



2025 8月
怒涛のフィールドワーク

2026 2月
おひろめ会

2025 6月
市役所に鬼電

2026 12月
空き店舗をDIY

2026 4月
プレオープン



学生賞 & オンライン投票銅賞を受賞しました

高校生には十分すぎるくらいの経験





インスタも
ぜひフォロー！→



2代目メンバー始動！

現在は2年生6人が活動しています

エバンジェリストからの話題提供 ～ COG参加にあたってのハードルと その対応など～

COGエバンジェリスト 多田さん（元加古川市）

■ COG2026 キックオフ | 自治体向け 話題提供

COGに踏み出す前の、4つのためらい

— その正体と、乗り越え方 —

多田 功（COG エバンジェリスト）

2026年6月14日（日）

多くの担当者が、最初に同じところでつまずく

「うちに、市民と一緒に考える課題なんて、あるだろうか？」

COGは2016年に始まり、今年で11年目。

それでも自治体の最初の一步は、いつも「ためらい」から始まります。

手を挙げられない理由は、たいてい決まっています。

— この「ためらい」を、4つに分けて、順番にほどいていきます。

自治体がためらう、4つのハードル

01 課題が出せない

「出せる課題なんてない」
「立派な課題でないと」

02 庁内が動かない

複数部署・上司の理解・
前例がない、という壁

03 データを出せるか

「オープンデータを
整備するのは大変そう」

04 もらって終わり？

協働・実装・継続が 続
くのか、という不安

「立派な課題」でなくていい

思い込み

市民に出して大丈夫な、
きちんと整理された“立派な課題”
でないと出せない——



COGの実際

課題は2種類でOK。

「問題を解決したい」だけでなく
「今をもっと良くしたい」型でもよい

粒度も数も自由。まず1つでいい。

求められるのは、市民目線の“困りごと”。
完璧な整理は要りません。

庁内をまとめてから、ではない

思い込み

複数部署をまとめ、上司や首長の理解を得てからでないと動けない。前例もない——



乗り越え方

担当課ひとつ・課題ひとつで小さく始める。

庁内へは“別の言葉”で説明する：

人材育成 / 関係人口 / 若い世代との接点

一人で抱えないこと。締切8/31まで、事務局・エバンジェリストに相談を。

オープンデータの整備は不要

思い込み

応募するには、まず
オープンデータを整備しないと
いけないのでは――



COGの実際

コンピュータ判読用の
“オープンデータ形式”でなくてよい。

公開済みの情報・資料・URLを
示すだけで応募できる。

“今あるもの”から始められます。

「もらって終わり」にならない

思い込み

アイデアをもらって終わり。
実装も継続も自治体が
背負うことになるのでは——



乗り越え方

“下請け発注”でなく「協働」。
まずは問い合わせ対応から始められる。

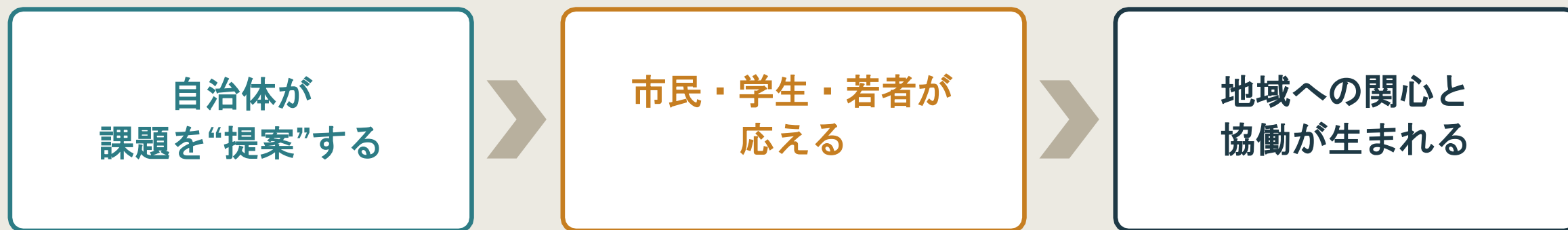
小さな第一歩を一緒に踏む設計
(STEP3で改善アドバイス・伴走あり)

。

先輩に学べる：真鶴・世田谷・横浜・三
条。

※今年は連携状況も評価対象に。

ためらいの正体は「完璧主義」と「一人で抱えること」



自治体は、課題を“受け止める側”から“投げかける側”に回れます。
その問いかけが、学校・市民・若い世代にとって
「地域に関わる最初のきっかけ」になります。

まずは、1つの課題から。

1 課題は1つでいい

完璧でなくていい。
“困りごと”でOK

2 情報を添えるだけ

公開済みの資料・
URLを示すだけ

3 迷ったら相談を

事務局や
エバンジェリストへ

STEP1 自治体の課題募集 受付中 — 締切 2026年8月31日

COGは「永遠のベータ版」。小さく始めて、市民と一緒に育てていく。

クロージング
～COGの進め方、今後の予定など～

COG事務局



COG2026のプロセス

1 全国の自治体が 「地域の課題」を提示する

市民や学生とともに取り組みたい地域課題を募集します。地域での対話や市民の声をもとに課題を見つけ、関連データとあわせて公開。

地方自治体の応募〆切

2026 **8/31** まで

2 市民・学生が 「解決アイデア」をつくる

公開された地域課題に対して、市民・学生チームがデータ・デザイン・デジタルを活用し、実践的なアイデアとして提案します。

市民・学生の応募〆切

2026 **12/20** まで

3 アイデアを審査・ ブラッシュアップ

提案されたアイデアは、内容や自治体との連携を審査されます。ファイナリストには、公開審査に加え、実現に向けたアドバイスや伴走支援が行われます。

最終公開審査

2027 **3/14** 東京大学にて発表

エントリー詳細は裏面へ→

STEP1 <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/padit/cog2026/#municipalities>

STEP2 <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/padit/cog2026/#citizens>

STEP3 <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/padit/cog2026/#advices>

STEP1 自治体からの課題応募（8月末×切）

課題をどのようにして見つけるか

- ・ 市民目線と行政目線の違い
 - 供給者目線とユーザー目線（市民目線）
- ・ 市民目線で課題を見つける
- ・ 市民と話をする（推奨）

市民目線で課題を見つける

- ・ しばしば役所内では気づいていない課題が多い
- ・ この気づきのためには
 - 自分自身が市民目線になってみる
 - いくつかの市民グループからのヒヤリングやワークショップを開く
 - フランクに本音を出せる信頼関係があればやりやすい

STEP1 自治体からの課題（8月末×切） どんなデータが必要か

- ・ 市民がアクセスできる公開データや情報
- ・ オープンデータ 統計 調査結果 報告書 計画等
- ・ オープンデータ形式以外でも公開してあればOK

STEP1 自治体からの課題 関連データ付き公表

- 課題名
 - 30字以内 キャッチフレーズ
- 課題分類 複数チェックOK
- 問題意識
 - 500字以内 わかりやすく
- 担当課（実績）
 - COG担当課（自治体判断）
 - 企画系、市民系、デジタル系、広報系
 - 個別業務課
- ✓ 両者の共同参加期待

COG2026ウェブサイトで一括公表（9月中旬）

STEP2 市民・学生のアイデア生成 (12月20日 〆切)

市民・学生の出番

- 社会の現実をよく知る
- 目標：あったらいいね！
- 3D活用：✓ 必須、○ 状況次第
 - ✓ データ分析で課題の傾向を知る
 - ✓ デザイン思考で課題当事者の心を知る
 - デジタル技術でアイデアを磨く

自治体はサポート役

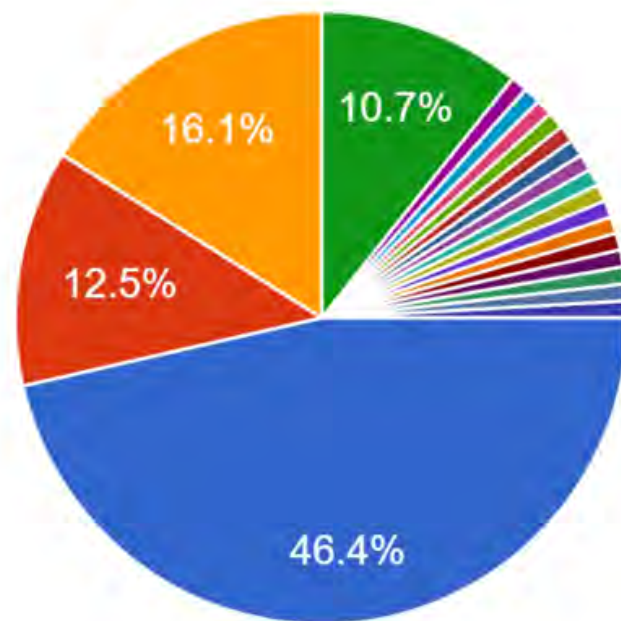
- 地域の課題の解説
- 既存の制度や仕組みの解説
- 関連データの解説
- 作業の進め方アドバイス



キックオフアンケート結果

属性1：あなたのお立場

112 件の回答

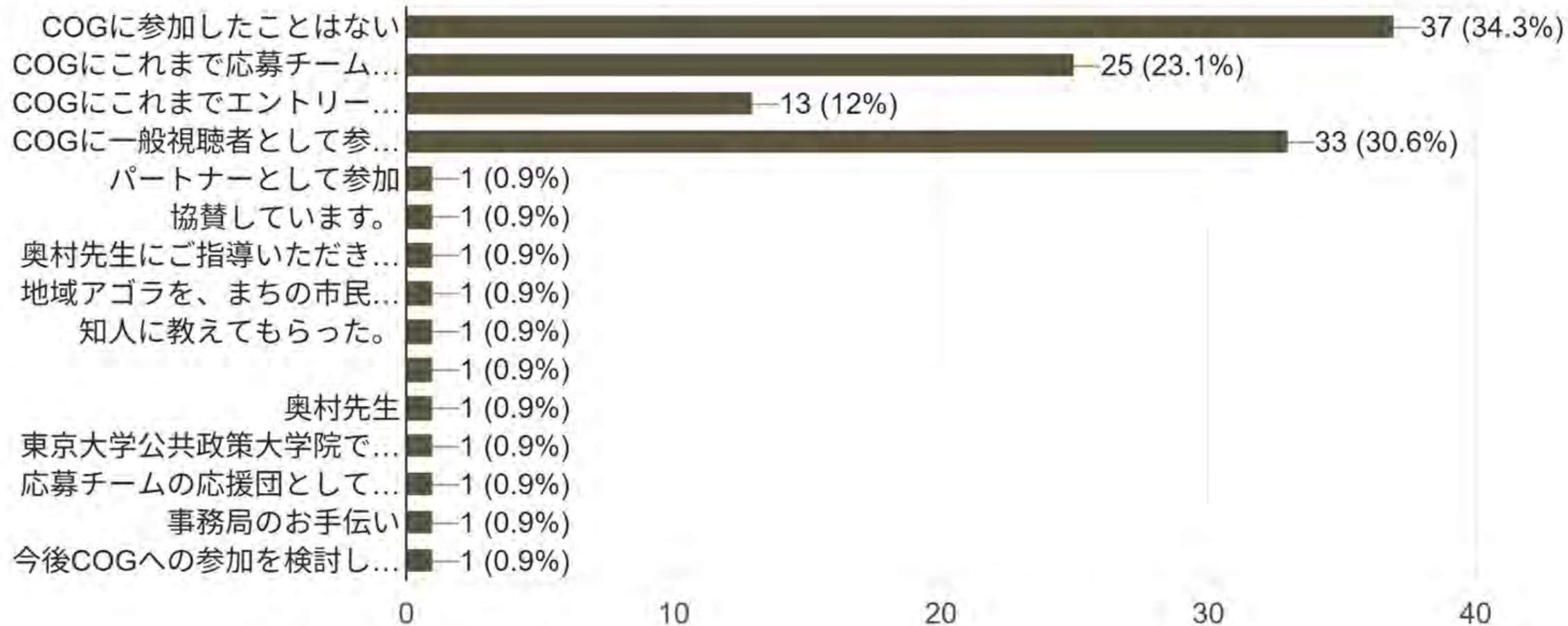


- 市民
- 学生
- 自治体
- アドバイザー（先生を含む）
- NPO法人理事長
- パートナー
- 公務員
- 調査研究に従事

▲ 1/3 ▼

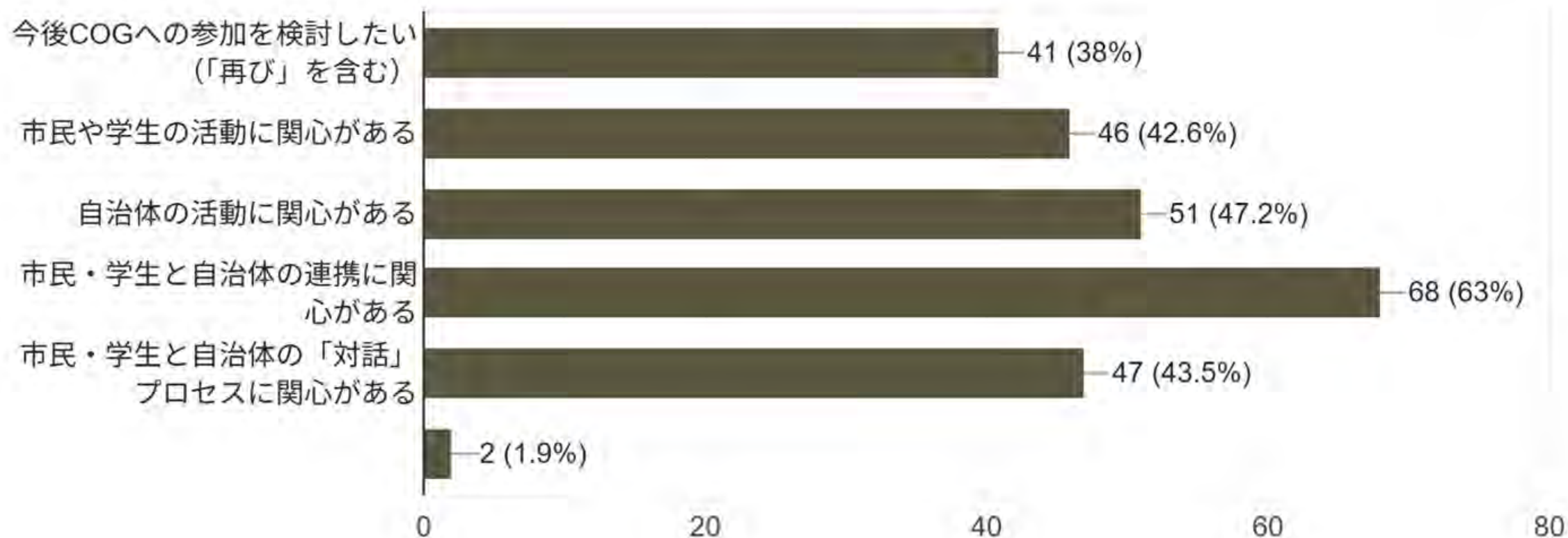
COGとの関わりをお選びください（複数チェック可）

108 件の回答



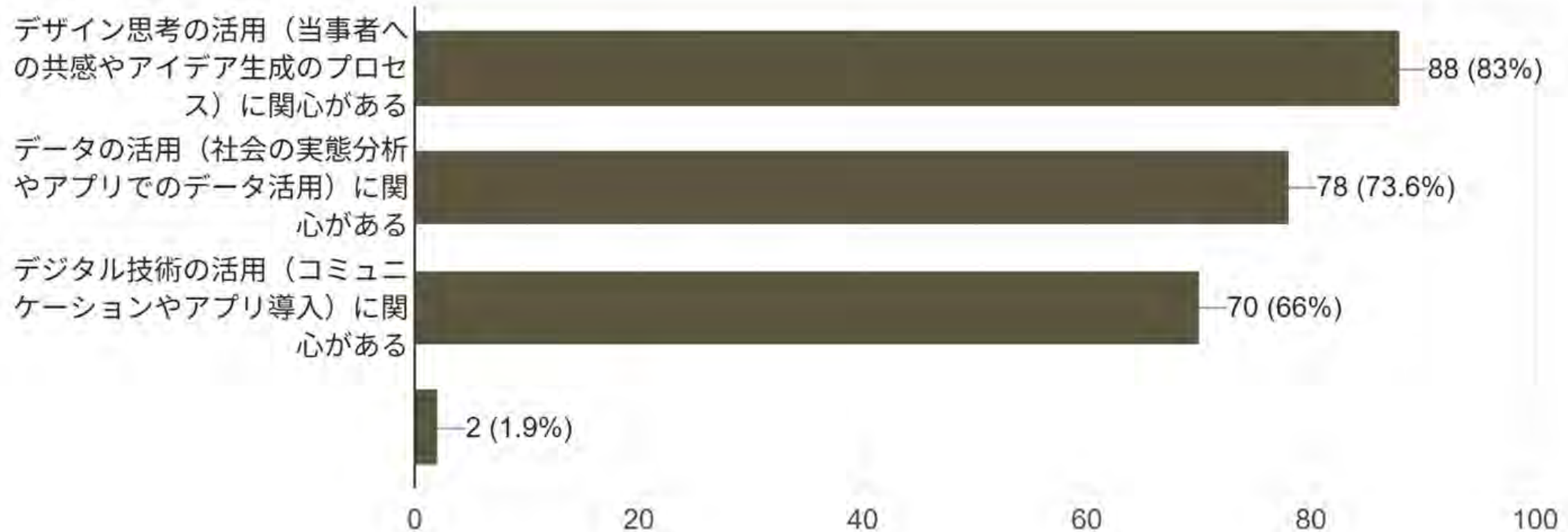
COGへの関心をお選びください（複数チェック可）

108 件の回答

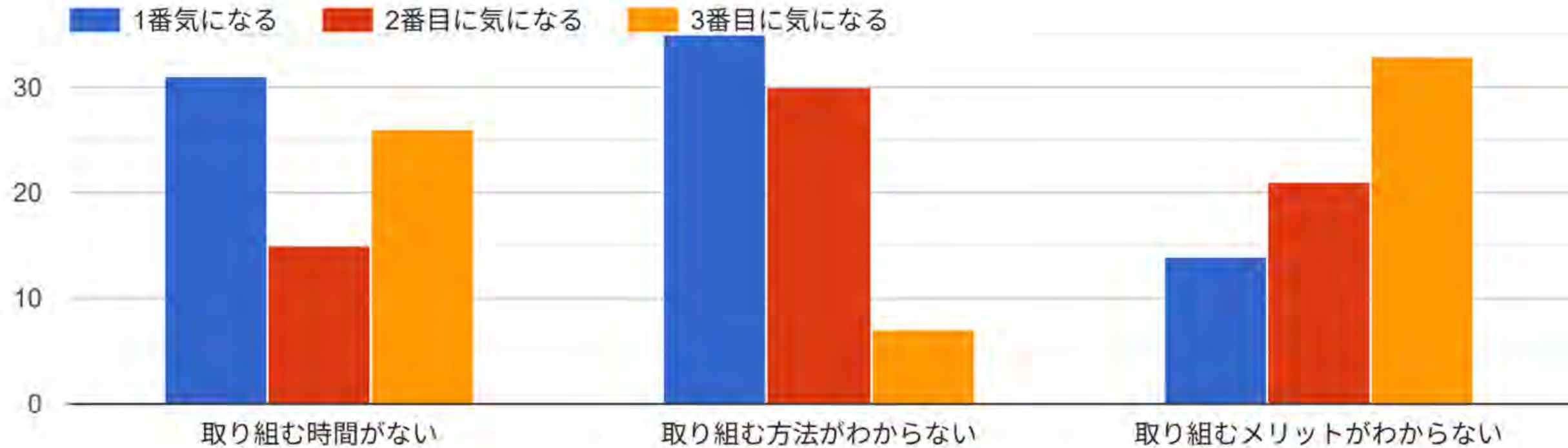


COGが勧める3D（デザイン思考・データ活用・デジタル技術）への関心（複数チェック可）

106 件の回答



（市民）市民がオープンガバナンスに取り組む際の課題



(市民) その解決策のヒント・その他に 感じる課題があればご自由に

1. 身近な事例と小さな成果の共有

AI活用や地域活動について、身近な事例や具体的なメリットを示し、ミクロでも目に見える成果を確認できることが参加のきっかけになる。

2. 人とのつながり・仲間づくりの重要性

良い仲間と楽しく取り組めることが鍵であり、仲間に巡り会えないと参加は難しい。地域には多様な人が暮らしており、現代版の「井戸端会議」のような、知り合い話し合う場が必要である。

3. 市民を巻き込むための接点づくり

土日の催事や市民団体の活動の場に行政が出向くなど、行政側から地域に入り込む工夫が必要。募集や呼びかけが届いておらず、関わりたい人に情報が届いていない可能性がある。

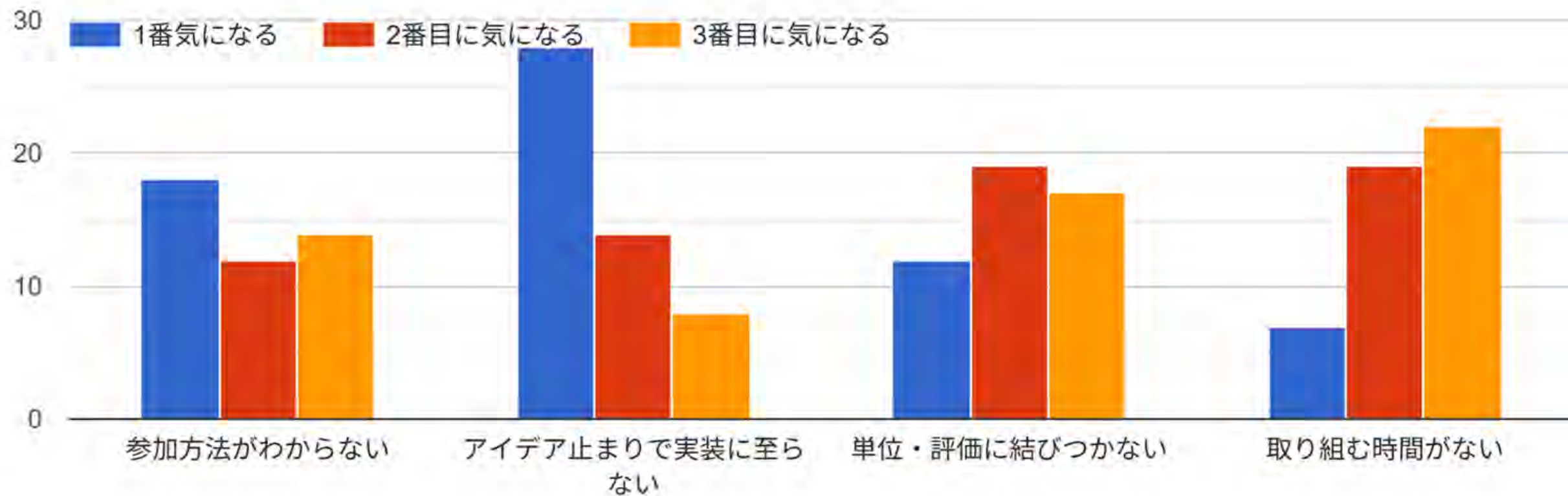
4. 分野を超えた連携と支援体制

分野を超えた連携、アドバイザーの存在、応募経験者の参加、地域で意識づけを担う人の可視化などにより、技術面以外の不足を補い、よいアイデアにつなげられる。

5. 当事者意識を高めるテーマ設定とPR

関心のある人だけが情報を得る状況を超えるため、当事者意識のわきやすいテーマを選び、取り組むメリットをPRすることが重要。会社や組織が奨励し、成果につなげる視点も必要である。

(学生) 学生がオープンガバナンスに取り組む際の課題



(学生) その解決策のヒント・その他に 感じる課題があればご自由に

1.継続性の難しさ

単位取得や進学目的だけになると、活動が一過性になりやすい。単年度や在籍期間に限られる仕組み、卒業後の関わり方も課題である。

2.自分ごと化のきっかけづくり

学生が参加するには、体験の場や自分で企画する機会が必要。忙しい中でも関わりたいと思えるメリットや糸口を示すことが大切である。

3.協働人材と支援者の確保

学生の中で協働できる人を見つけることが難しいため、地域コーディネーターや賛同する先生の存在が重要になる。

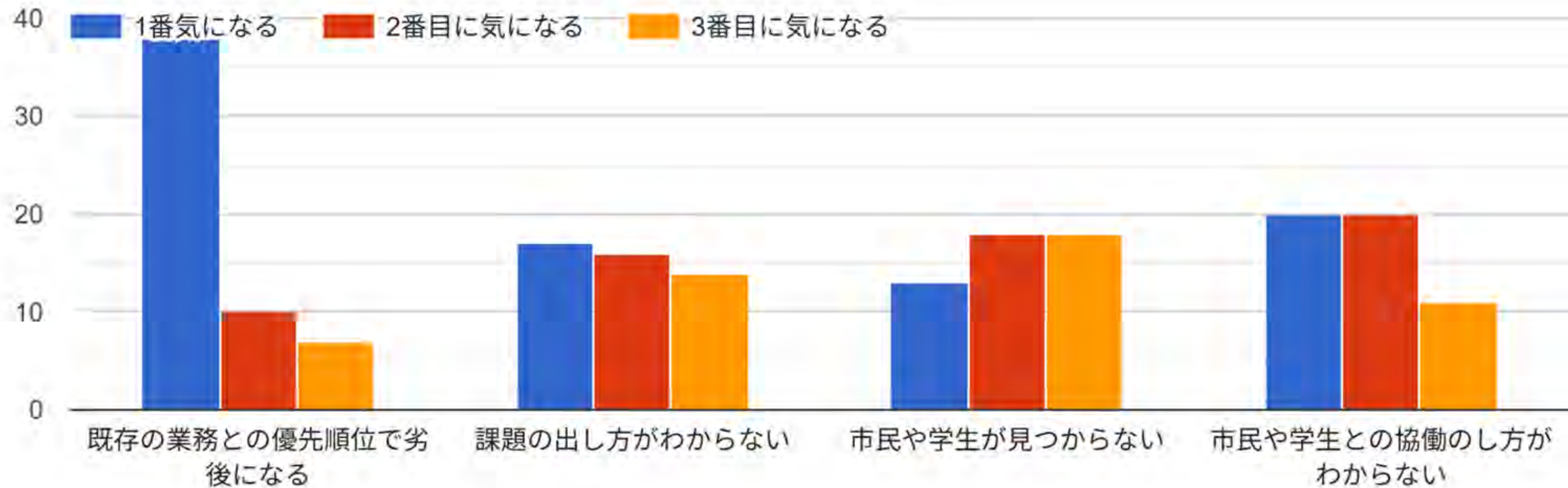
4.実装・広報・人脈形成の重要性

実装に至っても継続が難しいため、広報をしっかり行い、人脈をつくることが必要。アイデアをオープンに出すことで、新たなつながりが生まれる可能性もある。

5.教育制度との接続

入試制度や公立学校の在り方、不登校を含む教育課題とも関係する。学生の参加が大学評価などに反映される仕組みがあると、参加の後押しになる。

(行政) 行政がオープンガバナンスに参加する際の課題



(行政) その解決策のヒント・その他に 感じる課題があればご自由に

1.行政と市民の信頼関係づくり

行政の要望が強くなりすぎないようにしつつ、行政への信頼感や協業の安心感を醸成することが重要である。

2.日常業務の中で取り組める仕組み

職員は日々の業務に追われているため、「余計なこと」ではなく、住民との協働を正式な業務として位置づけ、お互いが楽になる取組として設計する必要がある。

3.課題提示とマッチングの仕組み

協力したい自治体・学生・企業・団体・個人をデータベース化し、課題の熟度や向き不向きを分かりやすくした上で、適切にマッチングする仕組みが求められる。

4.行政職員への働きかけと支援体制

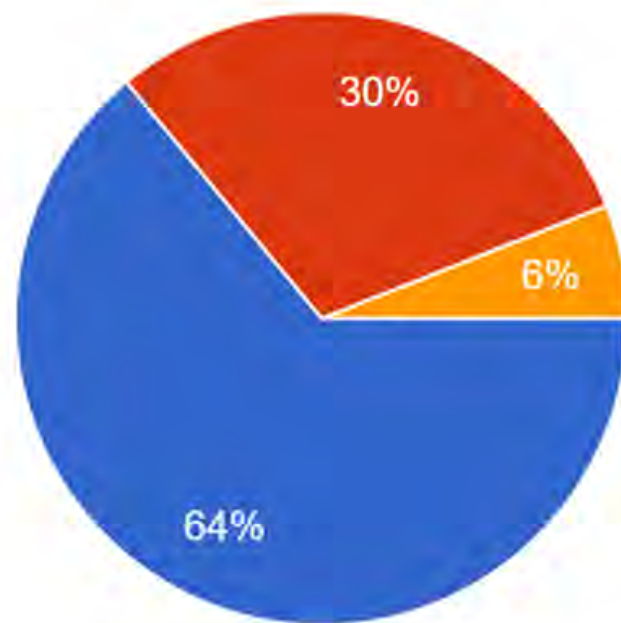
応募開始前から行政職員に直接働きかけること、セミナーやアドバイザーを用意することが有効である。広く学生に認知される工夫も必要である。

5.行政側の柔軟性とリーダーシップ

市民の声を拾い、一緒に考える場を大切にする柔軟性が行政に求められる。特に首長の姿勢や、協働を行政内で評価・奨励する仕組みが重要である。

生成AIの利用状況

100 件の回答



- よく使う
- ときどき使う
- 試したが今は使っていない
- 使ったことはないが今後使ってみたい
- 使う見込みはない

AIを使っている・使いたい用途（市民活動やアイデア創出での使い方など）をご自由に

1.記録・要約・資料作成の効率化

議事録作成、会議録、文章要約、資料の要点整理、プレゼン資料や報告書、企画書の下書き作成に活用したい。

2.情報収集・調査・分析

政策リサーチ、事例調査、課題把握、データ整理・分析、アンケートやインタビュー項目の精度向上などに使いたい。

3.アイデア出し・壁打ち・企画検討

新サービスやイベント、政策、地域活動の企画について、アイデア創出、問題点の洗い出し、キャッチコピー案、判断に迷う時の相談相手として活用したい。

4.文章・広報・表現の支援

SNS投稿、プレスリリース、チラシ・ポスター、キャッチコピー、想いの言語化、文章校正・整形・翻訳など、伝えるための表現づくりに使いたい。

5.専門的・個別的な作業支援

プログラミングや分析コードの作成、プラグイン開発、画像生成、専用AIへのカスタム化など、業務や関心に応じた個別の作業補助として使いたい。

生成AIについての心配や課題について 思うことをご自由に

1. 個人情報・情報漏洩・学習利用への不安

個人情報の取り扱い、入力情報が学習されない環境整備、情報漏洩への懸念が多く挙げられている。自治体や学校、企業で使う場合には、安全な利用環境が必要。

2. ハルシネーション・誤情報・ファクトチェックの課題

生成AIが架空の説明をしたり、SNS等で誤認を広げたりする危険がある。AIの回答をそのまま信じず、ファクトチェックを行い、最終判断は人間が行う必要がある。

3. 過度な依存・思考力や創造性の低下への懸念

「AIがこう言っている」と盲信する職員や、AIを万能と考える人が増えることへの不安がある。自分で考える力、内省する力、個人の創造性を失わない努力が必要。

4. 悪用・著作権・教育現場での問題

盗作、著作権侵害、フェイク画像、いじめ、犯罪への悪用、生成AIによるダークパターンなどが課題として挙げられている。特に学生の論文作成や評価のあり方にも影響が出る。

5. 使いこなし・人間側の教育とルールづくりが必要

指示の出し方が難しい、思い通りの回答にたどり着かない、利用法を知りたいという声がある。全世代に向けて、AIを便利な道具として適切に使う教育と、必要な制限・ルールづくりが求められる。

參考資料

COG事務局作成共通メッセージ： 「一歩踏み出すことから始まる変革」

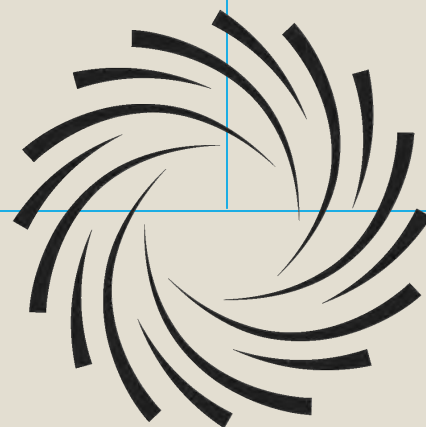
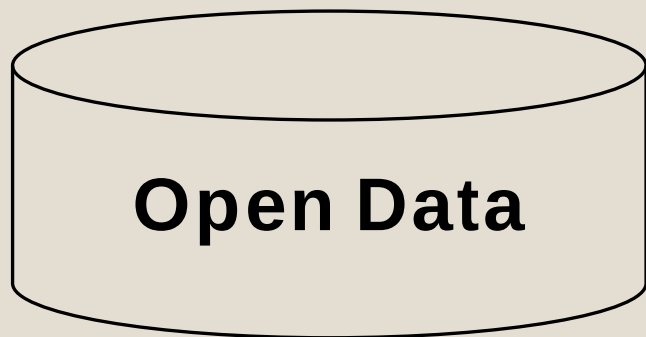
チーム側：最初は地域への愛着や興味が薄くても、参加することで新たな発見と成長機会が得られる

自治体側：完璧な準備よりも、まず参加することで様々な変化が動き出すきっかけになる

双方とも：すなおな態度でお互いに向き合い、「一緒に考える」姿勢から協働の第一歩が始まる

課題の流れを読む
データ分析（必須）

人の心を読む
デザイン思考（必須）



3D

人の活動を支援する
デジタル技術（状況次第）

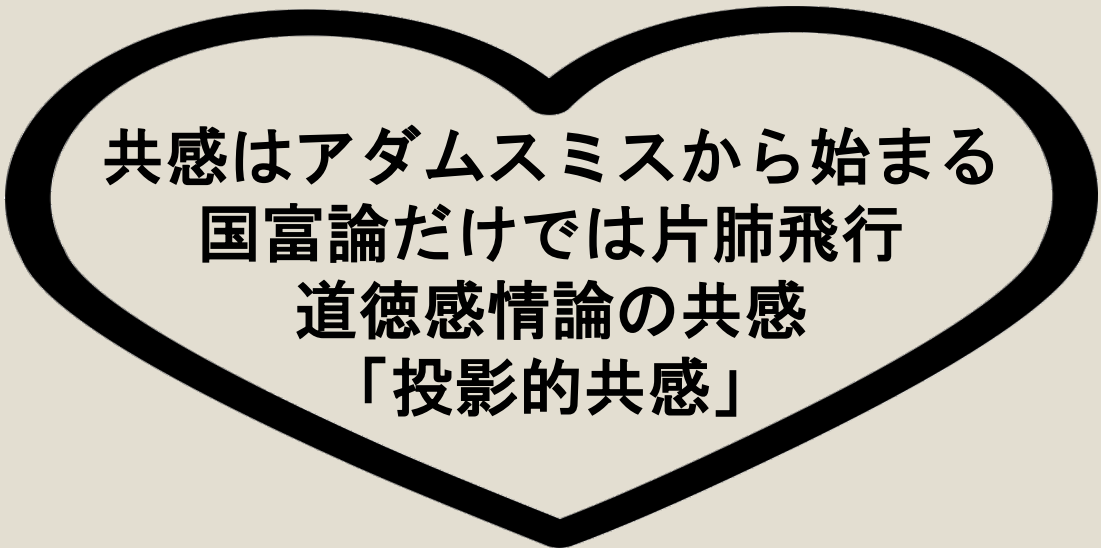
活用



デザイン思考のポイント

1. 相手に共感する
2. 相手と協働する

3. 未来から発想する
4. 実践を振り返る



共感はアダムスミスから始まる
国富論だけでは片肺飛行
道徳感情論の共感
「投影的共感」

アイデアづくりから応募までの作業の進め方サンプル

- ステージ1／根底の課題とニーズの抽出（ツール：データ分析とデザイン思考）
 - データや資料を活用して課題を分析し、デザイン思考による共感で課題の掘下げをして、根底の課題抽出をします。
- ステージ2／アイデアづくり（ツール：デザイン思考）
 - 掘り下げた課題を解決する具体的なアイデアの生成をグループワーク・ワークショップで行います。アイデアを練るため繰り返しの机上テストも良いでしょう。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。
- ステージ3／応募の仕上げ（ツール：論理思考）
 - こうして出来上がったアイデアについて、実現性チェックつまり実現可能性の確認をし、ストーリーを意識して、①アイデアの内容、②データによるアイデアの理由づけ、③実現までの流れをまとめてください。応募用紙はこの流れになっています。

STEP3 と アイデアの実行

STEP3

- 一次審査 1-2月
 - アイデア書類審査
- 最終公開審査イベント 3月
 - ファイナリスト審査と表彰
 - セミファイナリスト投票
 - ポスター展投票
 - 協賛団体賞

実行に至る壁

アイデアの実行

- ファイナリスト改善アドバイス 4月
- 自立への道
 - リーダーのコミット
 - 自己収入と資金繰り
 - 柔軟に進化するアイデア
 - 開放的な取り組み

補足

オープンガバナンス の推進の場の実現

- COG事務局

地域アゴラ（自然なポリティの場）が生まれていく

変わる市民

地域のことは自分ごと

変わるNPO

自分も一市民

変わる企業

自分も一市民

地域アゴラ

社会のウェルビーイング向上

変わる行政

企画と現場の連携
地域のプラットフォーム

AIが描くアゴラのイメージ



<https://stablediffusionweb.com/>

アゴラでの共創的意思決定と実行

- 水平的共創的意思決定プロセス
- 自分の立場にこだわらずかみしもを脱ぐ
 - 立場を入れ替えてみる経験が有効
- ソーシャルキャピタルを醸成する・・・
 - ネットワーク
 - 相互信頼
 - 共通規範
- 利害関係者を切り盛りする能力
 - 入口（課題発見）から出口（アイデアの実行）までカバーできるスチュワードを育てる
 - 当事者への共感をベースにする
 - 時にはデータ（事実）に聞く
- 原点に立ち返る
 - 社会のウェルビーイング向上
 - 専門家は科学的専門知識提供

地域アゴラ

公共サービスエコシステムを育む土壌

地域アゴラ成功のカギ

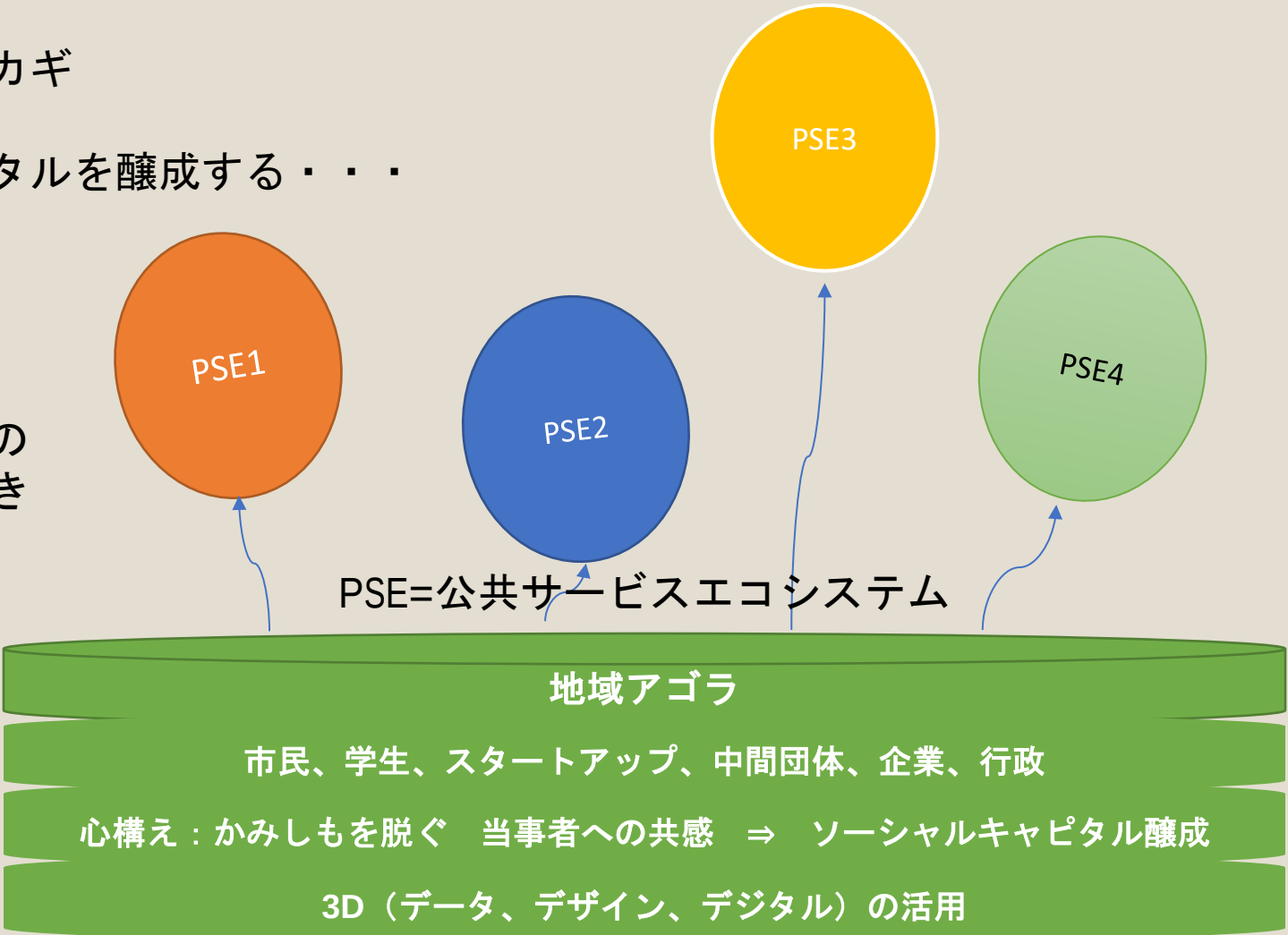
ソーシャルキャピタルを醸成する . . .

- ・ ネットワーク
- ・ 信頼
- ・ 規範

各地で地域アゴラの
具体例を探していき
ましょう

地域アゴラから
PSEが生まれます

地域アゴラは各
地域で複数あっ
てよいです



地域アゴラは、市
民・学生云々と行
政の立場の違いを
意識しつつも、心
理的な距離を取り
除いて、地域社会
のためにどう協働
ができるかの土壌
となります

このため一旦かみ
しもを脱いで（肩
書を一旦わきにお
いて）みな地域の
一市民になって共
通のウェルビー
ングを求めましょう